

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 11 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103270		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・不動院		
所在地	〒732-0068 広島市東区牛田新町三丁目5番21号 (電話) (082) 511-3281		
自己評価作成日	平成22年11月22日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	<a href="http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470103270&amp;SCD=320">http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470103270&amp;SCD=320</a>
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人 広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年12月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者一人ひとりが自分らしくまた安心して日常生活を過ごせるよう支援していく。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

このホームは、(株)ひょうま＝本部(島根県益田市)が広島市内に開設するGH・5か所の内の一つで、唯一の改造型(元大手電機メーカーの独身社員寮の転用)。いまでも、ホーム内には若者たちが元気に生活していた名残をとどめ、「活力」を醸し出すホームの設営に工夫が見られる。居室には、私物収納のための広い押入れがあり、部屋の視野を広く、足許の安全性にも配慮が見られる。◆ホームの立地は、牛田神田山中腹の閑静な高級住宅地の中にあり、隣接して自在坂神社、国の重要文化財の安国寺不動院もあり、利用者の外出・散歩に最適の場所にある。◆ケアサービスの面では、「してあげる」とか「押しつけ」のない、利用者の自立性を尊重した自然な気配り、目配り等のさりげない対応が好印象である。今夏8月に管理者が交代(昇格)し、広島事業本部との連携強化と支援を得て、利用者本位の新しい取り組みが展開中である。
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入居者の方々が毎日を自分らしく安心して過ごすことを念頭に置きケアを行なっている。	「やすらぎと、喜びのある日とその人らしく、いつまでも」など5項目の法人の基本理念と独自にこのホームの職員で討議した職員の理念と心得「※ 三誠五訓」を事務所内に大きく掲示し、日々のケアに活かしている。	※(参考) 三誠五訓 1. 己を捨てよ 2. 反省を忘れるな 3. 最後までねばれ  一. 時間を守れ 二. 言い訳をするな 三. 愚痴をこぼすな 四. 陰口は慎め 五. けじめをつけよ
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域との関わりを持っているが、日常的な交流は行っていない。	このホームは、閑静な高級住宅地の中にあり、周囲に生け垣、垣根を巡らせた邸宅がほとんどで、日々の散歩などであいさつを交わす程度の交流である。それ以上の深い交流には、地域的に限界が見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方へ向けての啓発活動は现阶段ではできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議内でホームの方から事業内容、行事や事故等についての報告を行い、それについて相談したりまた、アドバイスをいただくなど意見交換を行っている。	民生委員の方の協力度が特に高く、町内の1住民としての生活、利用者の実生活に即した議題を討議し、町の環境に即した対応が穏やかに進行している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	頻繁に連絡を取ってはいないが、何かあれば相談したり、運営推進会議の報告は行っている。	ホームの実績、活動内容等は、基本的に本部を通じて統括的に相談、協力の体制をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>無断外出される入居者の方がおられるため、安全面への配慮から家族の同意を得た上で玄関に施錠している。</p>	<p>ホームのすぐ横が車の往来のある傾斜のきつい坂道で、利用者の無断外出される場合等の安全面を考慮して、家族の方々の同意を得て玄関に施錠することになっている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員会議、申し送りなどで日頃のケアについて協議し、意識統一を心掛けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現時点では全職員で制度について学ぶ機会を設けていないが、今後はその機会を作っていきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書を見ながら一つ一つ説明しご家族に納得していただきながら契約を行うようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ホーム長会議や職員会議などで協議したことを報告、連絡、相談をしている。</p>	<p>ご家族の来訪も多く、定期的に「ホームだより」の送付のほか、各家族に電話で連絡をとるなど、コミュニケーションを強化し、「家族と一緒に」のケアを実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	個別面談・ミーティング・業務の合間に意見・提案を聴き、反映できるよう取り組んでいる。	職員の定着率も高く、「みなさまのおかげです。」と、管理者の控えめなリーダーシップながら、職員の「和」をとることに秀でて、意見や提案をホームの運営にうまく活かしている。ホームの雰囲気づくり、安全管理面の提案改善事例も確認された。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	面談にて職員個々の意見を聞く機会を設けている 職員の資格取得を支援している		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	なるべく誰もが外部研修に参加できる勤務体制を整えるよう考慮している また、毎月の職員会議の機会に相互の内部研修を行うよう指示している		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	他事業所との交流や意見交換、勉強会等へ参加できるよう、勤務体制のうえで配慮し、サービスの見直しの機会を得るようにしている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	入居を決める前に、体験入居を行い、その中で本人の不安や困っている事を把握し安心を確保するための関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族の思いをしっかりと聞きながら、どのようなケアを行なっていくか、相談し、また状態の報告を細かく行なっている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人、家族の思いをしっかりと聞きながら、その状況、状態に添ったサービスを提供するように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人が落ち着ける環境を作り、コミュニケーションを図り、家族のような信頼関係を築くようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族と職員が情報交換しながら、共に支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>面会時間を定めずいつでも訪問できるようにしている。</p>	<p>利用者の学生時代の同級生の来訪など、広範囲な交流を大切にし、オープンな対応をとっている。懐かしい人との出会いに、職員が同行で訪れる事例もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様がお互いのできるレクリエーションなどをし親交を深められるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要であれば、極力相談にのるように心がけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的に職員会議やカンファレンスを行い検討を行っている。	ある利用者の願い＝「折りずる」を平和公園に届ける事例など、心のこもったきめ細かい対処が見られる。とくに、利用者との会話の中に、「さりげない」やさしい表情の職員の対応が好印象である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の協力のもと、フェイスシートを作成し、それを基に状態、状況を把握した上でケアを提供するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活記録、申し送り、職員用伝達ノートなどを利用し、情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族に相談し、意見などを何うと共に、カンファレンスで職員の意見を聞き、ケアプランを作成している。でき上がったものについて家族に説明し了解を得ている。入居者様の希望は日常の会話の中から聞き取るようにしている。</p>	<p>介護計画の見直しに際しては、定期的および必要に応じて職員会議を開催し、日々の利用者とのコミュニケーションの中からの体調把握と下記(11項)にも関連して医療面の意見も組み入れて、より最適の介護計画の作成に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録や、伝達ノート、申し送りなどを利用し情報共有しケアの実践につなげている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人の通院支援や外出希望などのニーズにこたえられるよう対応している。また家族の状態なども常に確認しながら柔軟な支援に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>運営推進会議に民生委員、地域包括センターの職員の方に参加していただき、情報交換をしたり、アドバイスをいただいたり、協力関係を築くようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月一回、協力医の往診と月二回の看護婦の訪問があり、希望であれば、受診も家族、本人、医師、ケアスタッフと協議し行なっている。</p>	<p>かかりつけ医への同行および定期的な協力医の往診、看護師の訪問もあり、状況に応じた柔軟な対応がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	月に2回の看護師の訪問時に入居者様の状態、状況を報告し、健康チェックを行なってもらっている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時は随時病棟の医療スタッフの方と話し、治療中の様子や、退院のめど、退院になった場合の注意点等細かく相談するようにしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	過去に終末期対応をしたことはあるが、現時点では、終末期対応は難しいと判断しており、ホームとして積極的には取り組んでいない。	過去に取り組みの事例はあるが、何よりも家族の協力度が第一で、医療的な面と、諸般の態勢も考慮して、現時点では積極的な取り組みはしていない。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	来年度中に救命講習を受講する機会を作る予定がある。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	地域との協力体制は十分に築けていないが、ホームの職員は施設内の避難訓練を年に2回行なっている。	高級住宅地としての地域的な制約も見られるが、関係機関との連携を取って、災害対策への定期的な訓練が実施されている。緊急時の連絡体制の表示類も整備されている。	現在、マスコミ等でも一番重視されている事項、常にシュミレーションを徹底して、冷静な対応ができる体制の更なる充実を期待します。



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	状態や状況に応じたケアを提供するよう心掛けている。	職員は、ケアの仕事は、他人と向き合っている仕事、常に「自分に置き換えてどうか。」と自分自身に問いかけながら、言葉かけ、応対に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者との会話の中で希望を聞きだし、できるだけ希望に添えるよう支援をしている。家族にも声掛けし職員と共に協力しようとしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ゆっくりとした穏やかな生活ができるように支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の意思で衣類を選ばれる入居者様についてはその意思を最大限尊重している。選ぶことが困難な入居者様には職員が支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒にできることを探し入居者様と一緒に準備、片付けをするようにしている。	利用者の外出に合わせて食材の買い出しなど、全員参加型で食事の準備が進められている。とくに、食卓のレイアウトに工夫を凝らし、(これまでいろいろと配列を試みたとのこと) 楕円形の食卓を利用者、職員全員で囲み、お互いに顔を見合わせて、くつろいで、楽しく、ゆっくりと食べる雰囲気づくりの取り組みが優れている。食卓いっぱい潤う和やかな空気、それを支える職員の目配り、気配りの良さが垣間見えた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取、栄養バランスについては記録表や献立表に記入している。水分量については午前、午後のおやつ時、入浴後、食事中に十分摂っていただくようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行っている。全員ではないが、毎週水曜日に、歯科往診にて診てもらっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を活用し声掛け、援助が必要な方へは誘導や、必要な介助を行っている。</p>	<p>トイレでの排泄を基本として、各人の排泄表を見ながら、声掛け、トイレへの誘導と自然な介助が実行されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事に食物繊維の多い野菜を提供すると共に、散歩や体操などを行い、便秘予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの希望には添えていないが、毎日の入浴の希望があれば入浴してもらっている。</p>	<p>利用者の生活リズムを基本に、自然な対応とされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>就眠時間など一人ひとりに合わせ対応し、無理なく生活できるように支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の説明書を保管し、職員が薬についての情報を把握できるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>入居者の方々のレベルにあわせ、食事作り、盛り付け、洗濯たたみなど、出来ることをしてもらい感謝の気持ちを伝える。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>希望に添った外出はできていないが、散歩や買い物などを日常的に行い気分転換に努めている。</p>	<p>利用者のニーズにすべて応じ切れていないが、ホームの車に同乗して日々の食材の買い出しに遠方の大型スーパーに出かけたり、可能な限りの対応が見られる。とくに、このホームに隣接して歴史のある神社、寺院があり、その境内が安全な散歩の場ともなり、元気の出る「パワースポット」として活用されている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金の自己管理は、ご自分で管理できる方や、お金を持っていないと落ち着かれない方など家族の同意を得た一部の入居者様のみで、お金の管理が困難な入居者様についてはホームが立替えて行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望により支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じて毎月入居者と工作などをし、でき上がったものをリビングや廊下などに貼り付けている。	改造型のホームとしての制約はるが、家庭的で自然な生活感、利用者の動線に合わせた共用空間の設営に工夫が見られる。 とくに、ロビーにはみんな寄り添って、ひなたぼっこを楽しむ空間・雰囲気づくりに職員の気配りが随所に見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングや廊下、玄関前などに椅子を設置し、入居者様が好きなように使用できるようしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	親しみのあるものや今まで使っておられた馴染みの物を家族に持ってきていただき、居室などに飾ってもらい使用している。	利用者の思い、生活習慣に合わせた調度品が、自由に自然な形で配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の入口に表札をかける、リビングやトイレなども扉に表記するなど、わかりやすく目で見て判断ができるようにし、できることはご自分でできるような支援を行うよう取り組んでいる。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・不動院

作成日 平成 23 年 2 月 19 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域の方々との交流が十分できていない。	ひとりでも多くの方とのふれあう機会を増やす	地域の行事などに積極的に参加する。	12ヶ月
2	35	消防、避難訓練が十分に把握できていない。	全職員にマニュアルに沿った消防、避難体制を周知、確認し行うようにする	マニュアルに基づき常にシュミレーションを徹底し、冷静な対応ができる体制をつくる	12ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。